

第 2 回小郡市総合振興計画審議会 議事概要

日時：令和 8 年 9 月 10 日（木）11：00 ～

場所：小郡市役所 西別館 3 階 大会議室

No.	委 員 氏 名	所属団体・役職名等	備 考
1	山口 寛	小郡市区長会	
2	組坂 眞一	小郡市商工会	
3	三宅 淳司	小郡市観光協会	
4	島田 昇二郎	小郡三井医師会	会長
5	森 勝則	社会福祉協議会	副会長
6	小川 絵美	小郡市保育協会	
7	百瀬 光子	おごおり女性協議会	
8	榎本 美佳	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科	欠席
9	佐島 顕子	福岡女学院大学 人文学部現代文学学科	
10	天本 徳浩	崇城大学 総合教育センター	欠席
11	中地 幸	公募委員	
12	古賀 夏子	公募委員	

事務局	氏 名	役 職
	熊丸 直樹	経営政策部長
	永利 由希	経営戦略課長
	佐藤 恵一	経営戦略課 政策推進グループ長
	古澤 望	経営戦略課 政策推進グループ 主事
	森 琉貴	経営戦略課 政策推進グループ 主事

【委託先事業者】株式会社地域創生 Co デザイン研究所

【配布資料】

- ・資料① 第 6 次小郡市総合振興計画後期基本計画庁内ヒアリング結果報告
- ・資料②（1） 第 6 次小郡市総合振興計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果報告書（概要版）

- ・資料②（２）第６次小郡市総合振興計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果報告書
- ・資料③ 第６次小郡市総合振興計画後期基本計画（第１案）

【式次第】

1. 会長あいさつ
2. 議事
 - (1) 庁内調査結果について【資料①】
 - (2) 市民アンケート結果及びウェルビーイングの方向性について【資料②】
 - (3) 計画（第１案）について【資料③】
 - (4) その他
3. 諸連絡
次回審議回の開催時期について

≪議事内容≫

2. 議事
 - (1) 庁内調査結果について【資料①】
～資料①に沿って、事務局より説明～

委員：商業の関係で意見を申し上げるが、環境経済部のヒアリング結果説明で最初に出た西鉄小郡駅周辺の商業集積の低下、空き店舗の増加というものは、前々から出ている課題である。まず一番声が出ているのは、お昼に食べるところが少ないということである。スーパーの撤退による買い物不便ということも出ている。小郡市はベッドタウンであり、福岡に働きに行く人が非常に多いため、地域にスーパーが少しあれば、休みの時などに買い物ができるという考えもあると思う。私は商工会という立場から、駅前の閑散さを当初から言っており、前期基本計画策定時にその中心街をどうしていこうとしているのか経営政策部長にお尋ねしたが、それ以降回答をもらっていない。また、西鉄小郡駅は両側から降りられるようにすべきである。嶋田病院に行く人も、回り道をして行かねばならず不便であり、どうにか話を進めなければならない。部長にあえてお伺いするが、西鉄小郡駅前をどのようにしていくのか、どういう考えを持っておられるのか、お聞きしたい。

事務局：委員のご指摘については、前々から駅前活性化という点で、ソフト面を中心に取組を行ってきたところである。例えば、駅前活性化のための創業支援対

策、プレミアム付き商品券事業では、大型施設ではなく中小のお店で買い物をする場合の発行額を上げる対応も行っている。ただ、ハード面では中央の道路で分断されていたり、区画整理が最後までなされていない状態がある。時間はかかっているが、課題として捉え、一つ一つ整理していく必要があると考えている。課題はまだ多くあるため、継続的に取り組む必要がある。商工会、特に駅前に関わる方々と、ソフト面、ハード面の両方から議論する必要がある、若い人、今から小郡市を担う人たちが入る場を設け、議論できればと考えている。商工会のご協力も仰ぎながら進めていきたい。

委員：中心街である駅前を良くしていきたいという気持ちの表れが、私には伝わってきた。しかし、私は商工会を 16、17 年やってきて、常にこれを一番考えてきたつもりだが、なかなか実行にいかない。流行のコーヒーを売る店などを駅前に作るなど、若者が集う町にしてもらいたい。大型商業施設ができたことは、商工会にとっては必ずしも良いことばかりではないが、一般の市民から見れば良いことであると思う。小郡市に名前の売れた店が来たことは宣伝になる上、住む人にとっても良い。プレミアム商品券事業は本当にありがたいと思っている。私は県庁にも何度も行き、知事等にも要望し、西鉄小郡駅前をどうしていくか、青写真を書いてほしいと常に言ってきた。動かないと出発点にはならない。資材も高騰し、費用が非常にかかることは理解しているが、楽しみのある小郡駅前、若者が集まる場所を早く作り出していきたい。時間はかかるかもしれないが、急いで頑張っていただきたい。担い手・人手不足については、今度、三つの商工会が集まって生涯学習センターで合同会社説明会を開く予定である。中小企業は人を集めるのに苦労している。若者が小郡市で働きやすい環境を作る、そういう会社を大きくしていくことも重要である。

会長：小郡市にとっても西鉄駅前の開発は重要な問題である。高齢化社会では、郊外の量販店へ行く交通手段の問題がある。実際に小郡駅を降りた時も、寂しい環境が十年以上続いているのではないか。駅前再開発を重点課題として考えていただきたい。

委員：商工観光の観点から申し上げる。駅前の飲食店の少なさという住民ニーズがある一方、商工業をする方にとってはやりにくい環境があるという、相反する形になっていると思う。商業者の意見を伺うことも必要ではないかと思っている。以前、駅前活性化計画の会議があったと思うが、その後の継続はどうなっているのか。

事務局：商業活性化計画は、現在第 2 期である。「回遊性が生まれ、人が集まり、にぎわいあふれる環境づくり」という目標を立て、誘客・回遊性の向上、空き店舗・空きスペース・遊休地の活用を位置づけている。具体的には、近年取

り組んでいる鴨のまちプロジェクト、高速道路高架下、甘木鉄道小郡駅横でのイベント開催などを中心に、中心市街地の誘客・回遊性につながる取組を進めている。会議の状況については確認する。

委員：そういった会議や座談会、皆さんの課題を聞く場を改めて設け、一つずつ進めていくことも必要だと思うため、よろしく願いたい。

委員：駅前によく飲食店ができるが、本当に短期間ですぐ変わってしまう。出店しても継続しにくい問題があると思う。そこを解決しなければ、店を作ってもお客さんが来ず、店がどんどん変わってしまう。根本的なところから解決しないといけない。駅前に店を作れば人が寄るだろうという軽い気持ちで店を出している方も多いと思うが、そういうものではない。自分の店の個性、コンセプトを全面的に打ち出して、「あの店好きだな」「料理も美味しいな」と思ってもらわないといけない。赤のれん街、赤ちょうちん街のように、福岡から帰ってきた人が小郡市で飲んで帰れるような店を並べるなど、人が行きたくなるような場所づくりを進めていただければと思っている。

委員：六つの部のどこでも人手不足が課題であると理解した。例えば民生委員の充足率が86%ということであるが、民生委員を頼む人にとっては、1回、2回お願いに行って「はい、引き受けます」という人はなかなかいない。任期は3年間であるため、替わる人は1年くらい前から分かると思う。早めに依頼をして、この人に務めて欲しいと思ったら何回でもアタックしたらよいのではないか。消防団員も同様である。粘り強くいけば、そんなに確保は難しくないと思う。また、がん検診の受診率が低いということだが、検診車で胃の検診をすると高齢者が待つことになり、病院の方に個別に行くという声を聞く。もう少しこの辺りを改善すれば、検診率も上がるのではないかと思う。1点、不登校についてお尋ねするが、不登校でも小学校の卒業証書がもらえるのか。

事務局：不登校であっても、いろいろな形態があるが、卒業証書は多くのケースで交付されている状態である。

委員：不登校を考える講座を、どちらを主にして実施しているのか。不登校でも大丈夫ですよという講座なのか、不登校では困ります、学校に行きなさいという講座なのか。そこに疑問を感じている。

事務局：市の課題に対して「こういう糸口で」というヒントをいくつかいただいたと思う。関係部署にも共有させていただき、今後につなげたい。

(2) 市民アンケート結果及びウェルビーイングの方向性について【資料②】

～資料②（1）に沿って、事務局より説明～

会 長：男性も女性も、20代から30代のところで急激に差があるというのは、非常にショッキングな報告である。まさに子育てというものが、昔と違って今の若い世代にとっては難しいものとなっており、そこをどうにかしないと、ますます人口減につながる。子育て世代の支援をしっかりとしていくことは、市にとって非常に重要な政策であるが示されたアンケート結果だったと思う。

委 員：私は44年間小郡市に住んで、非常に住みやすいまちだと思っている。そのため、市民の評価が高かったことを非常に嬉しく思う。幸福度が全国平均を上回っていた点も非常に良い。これを市内外の方にしっかり知っていただくために、小郡市は住みやすいまち、幸福度の高いまちだと発信することで、新たな移住定住につながるのではないかな。観光協会としても、小郡市の魅力発信という意味で一緒に話を進めたいと思う。子育て世代にとって、土地を買って家を建てるハードルは高いと思う。筑紫野より北は地価が高く、住宅建設費も高くなっている。小郡市はまだバランスよく戸建てが増えている面もある。どこに家を建てるか困っている方が基山に建てるという話も聞く。小郡市も移住定住を進めるなら、こうした状況を追い風として生かせる、今が良いタイミングではないかと思う。

(3) 計画（第1案）について【資料③】

～資料③に沿って、事務局より説明～

質疑なし

(4) その他

意見なし

-----議事終了-----